卒業生によるボランティア活動グループわ会報

情報ぎゃらりー

第４６号

発行日　２００９年４月２４日
編　集　グループ“わ”広報部
発行者　加藤　勇治
発行元　ＮＰＯ法人社会還元センター
　　グループ“わ”
TEL (078) 743-8101　FAX (078) 743-3830
Eメール　group-wa@wa-net.jp
http://www.wa-net.jp/index.shtml

区会活性化対策大綱案纏まる

企画委員会委員長　加藤勇治（美工 10 期）

将来に繋がるグループ わ の基盤整備の一環として、本部役員、部会長、区会長の中から選ばれた委員 9 名で「企画委員会」を編成し、昨年 10 月から 4 ヶ月間「区会活性化対策」について集中審議を行いました。 わ の原点である“地域社会への貢献”を担う区会の「活性化対策案（骨子）」が以下のとおり纏まりました。

Ⅰ　区会の組織的位置づけの是正と会員への徹底

1.　区会＝基幹組織としての位置づけを明確化

グループ わ 設立趣意書や昨年の業務刷新委員会による業務見直しの中で、「地域社会での社会還元活動」が“ わ の活動の原点”として位置づけられている。区会を部会と並列した従来の組織図ではなく、本部と運営委員会に直結する基幹組織として位置づけ、部会は本部と連携して区会活動をサポートする組織であることを明示し、全員がこれを共有すべきである。（次頁の わ の組織図参照）

本部（エンジン、本店本社）
区会（ライン、支店支社）
部会（サブライン）

Ⅱ　区会運営の基本要領整理と共有化推進

1.　区会の役割と活動のあり方

地域住民との交流と地域に密着したボランティア活動を推進し可能な範囲で社会貢献につとめるとともに、区会メンバーの交流と融和を促進する。

① 地域住民との交流推進
- 区内の関連機関（区社会福祉協議会、ふれまち協、青少協、自治会など）との連携と情報交換
- ボランティア・ニーズの調査、掌握

② 会員の自発的地域密着ボランティア活動のサポート
- 浮き草会員（無所属会員）の組織化
- 既存地域活動（見回り、河川･公園クリーン活動など）への参画

③ 新規地域密着型ボランティア活動の企画、実施
- ボランィア活動メニュー、活動先の開発

④ 会員への情報提供（本部、各部会、他区会、他ブロックの動きなど）と情報共有化推進
- 区会メンバーとの定例会合の実施
- 連絡網の整備（E―メール網推進）
- 区会情報誌の発行

⑤ 区会活性化策の企画、実施
- 幹部会で検討
- ボランティアに積極的な“活動家”の発掘と勧誘

一人でも多くの参加で総会を盛り上げよう

平成 21年度 グループ わ 定期総会

開催日；5月２６日(火)　場所：シルバーカレッジホール

なお総会の議案書と出欠はがきを同封します。皆さんのご出席をお待ちしていま

⑥　区会会員相互の親睦・交流、融和の促進
- 新入会員歓迎会、◦日帰りバス旅行など

⑦　会員相互扶助制度の具体化

1.　区会運営基本要領（運営マニュアル）の作成

1）区会の組織体制、果たすべき業務内容、運営要領について、統一した基準、ルールが共有化されてない（区会が思い思い認識で活動している）ため、区会間で組織としての機能発揮面、活動実態面で歴然とした格差がある。共有化すべき統一した**運営規約と運営要領**を作成し、全区会に徹底する必要がある。

①　区会運営規約(会則)
- 現在各区会がそれぞれで制定している規約（会則）を精査し、本部で統一した標準的な区会運営規約を作成し、各区会に明示する。

②　区会運営要領
- 運営規約に準拠した標準的な区会運営要領を具体的に解説する。

Ⅲ. 地域密着型ボランテァグループの区会移管推進

1.　移管対象地域密着型ボランテア洗い出し・移管の基本的考え方

1）本部直轄事業を委託事業とボランティア活動に区分し、神戸市よりの委託事業は基本的に本部直轄事業とし、内容により区会とジョイントにする。

①　環境未来館、須磨一の谷プラザ、こども家

②　庭センター、いじめホットラインの委託事業は可能な範囲で区会とのジョイント実施　に努める。

③　学習支援事業は後述Ⅴ章参照。

④　シルバーカレッジ関係事業は一部区会との　　ジョイント実施に努める。
ⅰ）入学受付　ⅱ）入学写真　ⅲ）ﾊﾟｿｺﾝ教室　ⅳ）学園祭　ⅴ）オープンキャンパス

2）委託事業以外の本部直轄事業はボランティア活動(助成金事業含む)として区会に移管する方向で検討する。

①　しあわせの村関係事業（北区移管）
ⅰ）わいわいストリート　ⅱ）夏祭り

②　長寿社会開発センター等の助成金事業（各区移管）

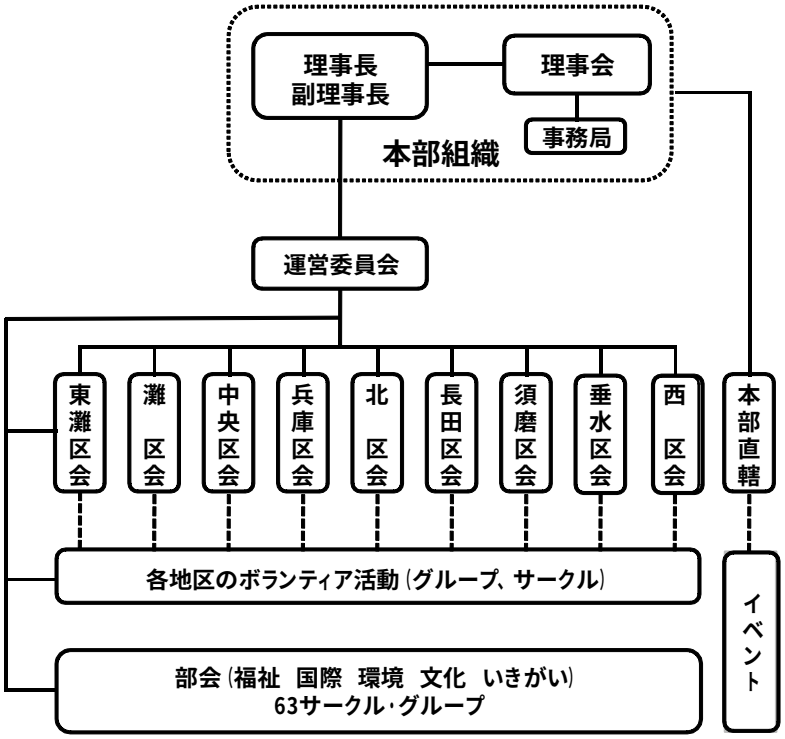
③　水の科学博物館関係事業（中央区移管）

④　コミスタ神戸関係事業（同上）

3）活動場所が限定され登録メンバーがほとんど特定区会に在住している部会所属ボランティアグループを区会に移管する。
ⅰ）有馬観光ガイド　28 名中 22 名　北区
ⅱ）花山梅林会　15 名中 14 名　北区
ⅲ）アイナくらぶ　12 名中　8 名　北区
ⅳ）プラハ園内ガイド 22 名中 18 名　北区
ⅴ）コーラス・タルミ 18 名中 17 名　垂水区
ⅵ）福田川グループ　未登録（垂水区会で活動している）

4）地域に分散できる部会所属ボランティアグループは区会移管を検討する。(例、昔あそび研究会)

5）ボランティア活動メンバーが特定卒業年度、コースに限定されるグループ は当面区会移管対象外とする。



2.　区会移管に伴う運営補助費の配分方法の改定

区会運営補助費の運営上の諸問題を解消するため、運営補助費の配分方法をつぎのとおり改定する。

1）　**一律支給を改定する。100 人以上の区は活動状況を考慮して配分する。各区より予算を申請する。**

2）　**使途科目に総会費用、親睦会費用を追加する。**

3）　**本部、部会活動を区会活動に移管し、新たに区会活動として活動するグループに運営補助費を支給する。**

4）　改定ではないが、区会では出来るだけ県、市の助成金を申請し、その助成金を活動費に充当することとする。

Ⅳ.区会の再編成と活性化への環境整備

1. 区会再編成の必要性

区の「登録会員数」と区会運営を担う「運営委員の陣容(人材規模)」はほぼ比例する。区会員の少ない区ほど、区会として標準的に求められる役割や活動が他の区と比べ、対応する運営委員の負担が大きい。（本部で企画され等しく導入を求められる「会員相互扶助制度の実施問題」がこの問題の深刻さを物語っている。）

「区会員の少ない区は他の少ない近隣区と合併するなど会員の人数規模がほぼ均一化する方向で区会再編成する」のが区会活性化推進に有効ではないか。

区会再編成案

東灘･灘	133名	須磨区	185名
中央・兵庫・長田	162名	垂水区	161名
北区北部	182名	西区	151名
北区南部	182名		

2.　再編成実施にあたっての課題

①　再編成の妥当性検証

各合併区、分割区それぞれが持つ特殊事情(阻害要因)や本部事務局の事務処理面への影響などを十分検証する。

②　関係者への周知徹底

③　円滑な移行体制づくり

円滑な移行のため準備委員会設置、移行要領、移行スケジュールを検討する。

3.　活性化に向けた環境整備の推進

組織の活性化にはそのための「環境整備」は必須条件である。 わ 挙げて以下の施策に積極的に取組み、活性化に向けた環境整備を推進する必要がある。

1）**優秀な人材の確保と育成**

ボランティア団体・ＮＰＯの最大の資産は「人」であり、優秀な人材をどれだけ集められるかによって団体の水準が決まる。

2）**ボランティアへの参加の場を提供すること**

わ の本部が地区と一緒になって神戸市・区役所・区社会福祉協議会・ふれあいの街づくり協議会・老人会・婦人会などを積極的に訪問して働く場所を確保する。

3）参加意欲の向上

表彰制度を設け、個々の活動実績を評価して、個人又は団体を運営委員会などで表彰する。また情報ギャラリーなどへ掲載して紹介する必要がある。

4）区会の合同会議

適宜、区会の合同会議を持ち、相互の情報交換会を行う。その会議でボランティアの活動実績、又は新規開拓など、参考になる議題を提供し合い相互研鑽する。

5）　**ボランティアに関する研修**

ボランティアの基本など、積極的に研鑽に努める。

6）　**区会の連絡網の整備**

活動の活性化には会員相互の緊密な意思の疎通が欠かせない。ブロック運営の推進（広域な区など）、区会会員の連絡網の整備は特に重要である。

Ⅴ　こどもの健全育成に係わる地域ぐるみの取組み対応

1.　市内各小学校への学校支援・学習支援の現状

市内各小学校･特別支援学校（以下各小学校という）に対して、次の各組織が組織だった連携がないまま思い思いに支援活動を展開している。

2.　学習支援・学校支援活動面の課題

次頁の表に示すように、わ 本部、わ 区会、カレッジ間には活動面で相互連携がなく、夫々がバラバラに活動している。

1）　わ では、本部主導で学習支援事業が実施されているが、地域ぐるみで実施すべき学校支援活動の領域は各区会会員の自主的活動に任さ

れたまま、組織化されていない。区会活性化対策上、区会の地域密着型ボランティア振興の観点からも、区会での学校支援活動の組織化が最優先課題といえる。

1）　当面の「区会レベルでの学校支援活動」の組織化を進める一方、本部（学習支援)、区会(学校支援)双方の連携を中心に、わの「総合的な学校支援（学習支援＋学校支援）体制の再構築」について検討を進める必要がある。

2）　また、カレッジの在学生が行う地域交流活動(学校支援活動)とグループ わの区会活動との間には相互連携がない。今後区会組織の若返りのためにも両者間の太い絆が求められる。

在校生との活動面連携強化（接点造りの強化）	⇒	**卒業後もわ区会での地域貢献継続**

2. 地域ぐるみでこどもを育てる体制造りが本格化

文部科学省（生涯学習政策局、社会教育課地域・学校支援推進室）が平成 20 年度から「学習支援地域本部事業」の実施を全国的にスタートさせている。学校支援地域本部は学校を支援するため、学校が必要とする活動について地域の方々をボランティアとして派遣する組織で、いわば地域に作られた「学校の応援団組織」と言える。地域のボランティアが学校を支援するこれまでの取組みを更に発展させて組織的なものにし、学校の求めと地域の力をマッチングしてより効果的な学校支援を行おうとする制度である。

こうした地域ぐるみの学校支援体制造りが本格化してきた現下の情勢を考えると、まず、学校支援ボランティア組織の代表候補としてグループ わ の存在が標的になることは避けられない情況にある。

4. わ 本部、区会一体の学校支援体制構築

最優先課題の「各区会での学校支援体制造り」から着手し、段階的に本部･区会一体となった総合的学校支援(学習支援＋学校支援)体制を整備していく。

第一段階

各区に「学校支援担当者」を任命し、各区内の自発的学校支援（学習支援活動者も含む）の実態を調査し、「学校支援活動グループ」を組織化する。し、区会活性化を加速させる。

第二段階

後述区会活性化推進委員会「学校支援体制部会」、「学習支援委員会」、「区会学校支援担当者」の三者でグループ わ の新しい「学校支援体制の再編」を協議する。

第三段階

グループ わ の「学校支援組織体制」本番スタート。本部組織には対教育委員会窓口機能、各区学校支援活動の調整機能、 わ 全体としての学校支援推進のための企画機能を残す。

以上の活性化諸対策を推進するため、新年度「区会活性化推進委員会（仮称）」をわ本部に設置し、活性化諸対策の具体化に取組む方針です。

学校支援･学級支援活動状況

組織	活動メンバー	支援活動内容	支援対象
グループ わ 本部	学習支援登録会員	[学習支援活動] ◦学習の指導補助 ◦課外学習の指導補助 ◦特別支援教育の補助	市内全小学校（特別支援学校を含む）
グループ わ 区会	自主的支援活動会員	◦本部実施の学習支援 ◦カレッジ在校生実施の学校支援	市内の特定小学校（活動者との個人的繋がり他）
カレッジ在校生	地域交流授業参加の在学生	[学校支援活動] ◦登下校のこども見守り ◦学校行事等の受付･見回り ◦花壇・樹木手入等環境整備 ◦その他学校全体に係る支援	市内全小学校（特別支援学校を含む）

一ノ谷プラザ主催イベント

広報部　長谷川洸士

和凧をつくり須磨海岸で凧上げ

１月２５日（日）「和凧をつくり須磨海岸で凧あげをしよう」が、親子２０組５０名が参加して開かれた。
午前中、まず和紙に好きな絵を美工８期の松本さんのアドバスで思い思いの絵に挑戦し、そのあと、藤田副理事長の指導で自分の描いた和紙に竹ひごを糊づけし、糸を付ける作業に親子一緒に熱中していた。

昼食後、近くの須磨海岸に降りて、凧上げを楽しんだ。くるくる回ってなかなか上がらない凧は、指導員の方の手直しで上がるようになり、中にはとても高くまであがった凧もありました。

参加者からのお礼状

春が待ち遠しい季節になりました。
和凧作りは、親子とも初めてでどうなるかと思っていましたが、ご親切に教えていただいたおかげで見事“青空”に舞うことができました。
私自身知らないことや、経験したことのないことが多いので今後も学ばせていただけたらと思っています。グループ わ さまのさらなるご活躍を切望しています。また参加させてくださいますようよろしくお願いします。≪参加者の母親より≫

認知症を正しく理解しよう

２月１９日（木）一般の方を含め約５０名の参加して、「認知症を正しく理解しよう」の勉強会が開かれた。高齢社会では、８５歳以上では３人に１人が罹る病気といわれる認知症がどのような病気で、認知症の方にはどのように接するのがよいかについて、認知症キャラバンメイトの西本敬子先生、認知症予防体操を佐竹由美健康運動指導士の指導を受けました。

認知症とは

認知症は、「もの忘れ」を主体とする脳の病気で、年齢相応の「もの忘れ」とは別のものです。

	認知症によるもの	加齢によるもの
症状	☆体験全体を忘れる。 ☆思い出すことが困難	☆体験の一部のみ忘れる。 ☆ヒントがあれば、思い出すことができる。
	（例） ☆食事したこと自体を忘れる。 ☆人の顔を忘れる。	（例） ☆食事の内容を忘れる。 ☆人の名前を和する。

認知症は早い時期に発見・診断することで、正しい対応（介護）や治療を行うことができます。病気の種類によっては、薬で進行を遅らせる事ができたり、治療で治る場合もあります。おかしいなと思ったら、年のせいにしてしまわず、早めに相談しましょう

認知症に関する相談窓口

◆あんしんすこやかｾﾝﾀｰ（地域包括支援ｾﾝﾀｰ）

お住まいの地域の身近な場所で、高齢者の在宅介護の相談や保健福祉サービスの利用手続きなどを行う総合的な窓口です。（市内 74 か所市が委託）

◆各区役所　あんしんすこやか係

こころの病気に関するご本人やご家族からの相談に、精神保健福祉相談員や精神科嘱託医が応じます。（事前に電話でご相談のうえお越し下さい）

小学校英語活動の現状と今後の　取り組みについて

（市教育委員会ヒアリング報告）
学習支援委員会　　福12　川上　弘一

1，ヒアリング日時・場所・出席者

（1）　日時：𠀋21年2月2日AM10;00～11;00

（2）　場所：神戸市役所　教育委員会

（3）　出席者

教育委員会　指導部指導課国際教育担当

グループわ　学習支援委員会

委員長　　中沢保夫

委員　　川上弘一

アドバイザー　加藤勇治

2，小学校英語活動の現状

（1）　小学校における英語活動の内容

①現在小学校で実施している英語活動は、英語を教え込むのでなく英語に慣れ親しむ活動、英語を使ってゲームや遊びをしながら、楽しみながら英語になじみ楽しむ活動(英語学習活動)として実施している。

②これは中学校、高校で本格的に行われる英語教育の“下地づくり”をすること、国際社会を知ることを狙いとしている。

（2）　英語担当者と英語活動時間

①担当者

・現在各校１名のネイティブティーチャー(複数校を担当)が人材派遣会社から派遣され、担任教員が補助して実施されている。

・英語活動メニューはネイティブティーチャーに一任されている。

・市教育委員会では𠀋２０年度から、英語活動を担える先生の研修を積み重ねてきた。

②英語活動時間

・𠀋15年度から３年生以上を対象に年間平均７時間程度実施している。

3，今後の取り組み方針

（1）英語活動時間(5・6/年生の場合)の充実

・𠀋23年度から年間35時間、週1時間の活動を目標に実施することになっている。

・そのために𠀋21年度は年間15時間、𠀋22年度年間 25 時間と段階的にこの英語活動時間を拡大していく方針である。

（2）英語活動担当教員の育成と英語サポーターの増強

・英語活動の充実化に伴い、将来的には担任教員に一本化することを目指したい。担任教員の英語能力上弱点をカバーする教材「英語ノート」の新調、など育成強化に力を入れ、担当教員が主役で、ネイティブティチャーや英語サポーターが補助役として学習できるような体制にしていく方針である。

・当面はネイティブティーチャーのほか、担当教員が英語サポーターを動員して対応していきたい。

・英語サポーターとしては、グループわやシルバーカレッジの学生の方々のほか、教員を目指す大学生（英語メニュー履修中の学生）などの協力をを求めたい。

・市教育委員会では今後各校での英語サポーターの必要数を調査し、必要に応じ英語サポーターの補完を各校に勧めていきたい。

（以上）

私ども学級支援グループは他の教科と同様、学校からの要請に基ずき、支援のご意向をおもちの登録者に活動をお願いします。(資格は不要です。)

①　支援者のできる範囲のことを

②　要請校の求める範囲内で

③　活動者が、学校長、先生に会って打ち合わせ合意の上

実践に入っていただきたいと思います。

平成21年度の要請はすでに

[須磨区]　若草小、東落合小

[北区]　　北五葉小　　から来ています。

平成２１年度第１回“学習支援者の集い”

学習支援委員会

4月２１日(火)10：00～12：00の間、神戸市シルバーカレッジにで開催しました。

多数の支援者およびKSC学生が出席され次の通り進行されました。

(1)挨拶　　グループわ理事長　　加藤勇治

引き続き本年4月着任されました

カレッジマネージャー　中山喜統様からご挨拶を頂きました。

(2)平成20年度活動報告と平成21年度取り組みについて説明

(3)平成21年度神戸市立小学校・特別支援学校よりの学習支援要請校名と要請内容について発表

(4)ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝで出席者全員の発言と意見交換

5月連休明けより本格的に支援活動が始まることになりました。(次号に詳報の予定です。)

灘 区 会

灘区会　便り

灘区会長　国-8　福田　望

灘区会員の皆様、お元気ですか！.

冬眠から覚めて、やっと動き始めます。アットいう間に四月に入り桜の季節を迎えましたが花冷えで桜の開花が一時停まったような寒さでした。早春賦の歌詞のように“春は名のみの風の寒さや”でした。

さて、三月は巣立ちの月で私の母校摩耶小学も卒業式があって同窓会の役員で出席してきましたが、68 年前の日米開戦の年に私は卒業ですから遥かな昔で、仰げば尊し、蛍の光の時代、正に隔世の感を覚えました。それでも今日の卒業風景もジーンとくるものがあって昔も今も心は変わらないなあーと実感した次第です。

もうひとつ、思い出深い体験を紹介します。ごく最近のことですがグループわの事務方から連絡があって、灘区の六甲ケーブル駅下にある神戸市立ひまわり学園の幼児と山歩きをするボランティアの依頼がありました。ここは心身障害児を保育する学園で昨年の秋頃から活動を始めこの三月にお別れ会がありました。お母さんたちは我が子を学園に預けている間に家事の仕事やパートで働くなど大変だろうと思いますが異口同音に足腰の強い子になりました・・・と学園の存在に感謝されていました。まだ短い活動期間でしたが、私も自分自身の健康を確認するためにも続けるつもりです。この 4 月 15 日に対面式があって新しいスタートを切ります。この体験の話は灘区会員の方にも伝えて、グループわの活動に広げてゆきたいと思います。

長 田 区 会

Ｙ君の卒業式

長田区会　　松本　治司

平成２１年３月２４日神戸市の小学校で一斉に卒業式が行われた。

２年間私達と一緒に学んだ彼も、その日Ｎ小学校を卒業した。胸に赤いリボンを付け、校長先生から卒業証書を頂いた彼は、６年間学んだ仲良し学級に別れを告げた。

式の途中、何時もの様に動き回らないか、また走り回らないか、そんな私達の心配をよそに、彼は一時間余りをよく耐えた、そして立派に卒業式を終えた。見ていて胸が熱くなった。

２年前だった、学習支援で初めて「仲良し学級」の教室に入ったとき、彼は布団で横になっていた、私が声を掛けると、立ち上がってボールを私に投げつけてきた。それが彼との出会いで彼の挨拶だった。

言う事を聞かない彼には苦労した。勉強中は殆ど机に座らない、教室に貼っている紙を破る、落書きをする、物を壊す、そんな毎日が続き、勉強の出来る雰囲気ではなかった。

体操の授業では、何時の間にか居なくなり、校舎の回りで彼を捜している間に授業が終わる。ボールをわざとプールに投げ入れる。また音楽の時間では、演奏の途中でドラムを叩いてよく怒られた。仲良し学級の教室では下級生を虐めて先生に怒られる。そんな毎日が続いた。

学習支援の難しさを痛感しながら１年が過ぎた。しかし、６年生になってから彼の行動に変化が見られるようになった。机に座る時間も増え、算数は苦手だったが、私に国語の教科書を読んで聞かせてくれる事もあった。

この２年間彼との思いでは沢山ある。苦労もした、しかし私は彼の素直な性格が好きだった。朝には笑顔で迎えてくれる、帰りには「有り難う」と言って見送ってくれた。

彼は、中学では養護学校には行かなかった。これからは苦労も多いと思うが、幸せな中学生活を送って欲しいと思う。

ボランティア保険Q&A

平成 21 年度からボランティア保険は、兵庫県ボランティア活動保険に替わりました。

保険の対象、手続き、他の保険との関係等々、「グループわの保険への取り組み」「会員・非会員の保険適用早見表」「申請の手引」を一冊にまとめ、本誌に同封しておりますので、御覧ください。

中央区会

中央区会の現況について

中央区会長　　福-7　五味 正昭

前任者の杉野好一氏より会長職を引き継ぎ、平成18年４月より平成21年３月までの３年間区会長として区会業務に当たってまいりました。

中央区は、“わ”の各区会の中でも最小人員区ですが、以前より毎月区会を関催している関係上区会員が顔なじみとなり、ボランティア案件に対し、参加要請が出し易い環境がありました。

そして、出席した区会員の積極的な参加により、次の如くの実績として発揮されました。

1. ボランティア案件数及び延参加人員の推移

H18年度　　案件数：31件　　参加人員：456名
H19年度　　案件数：27件　　参加人員：417名
H20年度　　案件数：34件　　参加人員：361名

2. 中央区会員の月例会出席人員の推移

H18年度　会員数：38名　平均出席者数：17.2名
H19年度　会員数：41名　平均出席者数：16.5名
H20年度　会員数：38名　平均出席者数：12.4名

- 平成20年度の参加人員減及び月平均出席者の減少は、体調不良や家庭の事情にて4名の方の退会と期中において１名の方の転宅によるものです。　とくに、中央区会として、今後の活動に痛手なのは積極的に活動に参加いただいた次の方々です。生5・岡尾昌子、福6・古田　昇、国2・宮崎恵美子、音12 ・ 槌矢香代の諸氏と期中において転宅された国 10・渡辺寛治氏です。

今後を考える時、団塊の世代の増加によるボランティア活動の多様化により、自分に合致した活動内容に傾注する傾向が、益々顕著になるのではないかと思います。これが区会において、新規加入者の方々への活動の移管を難しくしている最大の原因と思考致します。

幸いにして、“わ”本部では、平成20年10月から4ヶ月間「区会活動の活性化問題」を、加藤理事長を長として、9名の方々による企画委員会にて集中審議され、活性化対策大綱の取りまとめが過日の運営委員会において発表され、こらから具体化に向けた取組みがなされ様としております。新しい方向付けが楽しみです。

3. 中央区会の業務内容

中央区会升例会の開催：毎月第1土曜日
場所：こうべ市民福祉交流センター　セミナー室
時間：10：30～12：00

議題：

① わ 運営委員会の議事内容の報告及び付帯資料の　配布及び会場での回覧
②直近3ヶ月のボランティア案件のチェック及び確認（案件確定分）
（前月実績・当月予定・翌月予定）
（継続案件・自主案件・本部主導案件・中央区ボラ　　セン案件）
③参加者未定のボランティア案件の提示及び参加者募集出席可能者で、当日欠席者の人には、電話などにて参加可否の確認
④懇親会、新年会、“わ”主催のイベント、などの参加者募集確認

なお、月例会終了後都合の良い有志数名が、昼食をしながら談笑し、意志の疎通を図っております。

パソコン講習（有料）受講生募集

在校生を主体に募集しますが、定員に余裕がある場合受講できます。詳細は“わ”事務局にお問い合わせください。　電話　078-743-8101

基礎をゼロから修めたい方

PC入門０からの基礎

5月11日（月）～22日（金）14；30～16；30
全10回20時間受講料￥10000(テキスト代含)

このコースのみ以下のコースに継続できるよう連続で行います。

Winも日本語入力もでき更に上を目指す人は

① ＰＣ実用　身近な応用

《０からの基礎を終えた人にも好適》
5月２８日～７月30日毎木曜14；30～16；30
全10回20時間受講料￥10000(テキスト代含)

② メール・インターネット

《知らなかった楽しいテクニックの数々を》
5月２５日～８月3日毎月曜14；30～16；30
全10回20時間受講料￥10000(テキスト代含)

③ デジカメ・画像

《パソコンで処理してこそ真のデジカメ写真》
5月27日～７月29日毎水曜14；30～16；30
全10回20時間受講料￥10500(テキスト代含)

④ パワーポイント

《会心の卒業発表期して技術武装をしよう》
5月29日～７月10日毎金曜14；30～16；30
全７回14時間受講料￥7300（テキスト代含）

【ご注意】講習はウインドウズＸＰ機で行います。なおＶＩＳＴＡ機をお持ちの方は自機持参可です。　**各コースとも先着25名**

垂水区会

垂水区会現状報告
垂水区会長　国-11　中山　幸夫

平成 20 年度、垂水区の地域活動は、過去の規模で継続し、正確にいえば、わずかだが拡大することができた。情報ぎゃらりーにもよく紹介されてきたＪＲ舞子駅周辺案内ガイドは、今年も 78 日、延べ 226 人日従事し、3,871 件の案内をしたと報告されている。

このような活動グループは、11 あるが、今回は、そのうち 2 つを紹介したい。

1.福田川クリーン作戦グループ。

白川・落合を水源とし垂水港に注ぐ由緒ある河川が近年整備され、中流約 2㎞ の両側は遊歩道となっていて、この区間の定期清掃が主な任務である。20 年度の実績は、12 日・延べ 103 人日、燃えるゴミ・燃えないゴミ各 1～3 袋といったところ。

現在登録人数は 22 名、2 月から 13 期生も参加してくれている。元気のよいグループのひとつだ。

[写真参照]

２KSC 在校生支援グループ。

現在塩屋小学校の登校時交通安全指導となかよし学級支援(20 年度実績 148 日･延べ 173 人日)　だけである。登録人数 7 名が、在校生の組むスケジュールに従って活動している。

KSC 地域交流活動報告によれば、去る 19 年度には垂水区 9 グループのうち 4 グループの活動に 0B が参加している。塩屋小学校もそのひとつである。在校生数が激減したため在校生が主体、会はその支援と位置付けることが、今後在校生活動の中断を避ける途をつけることになると判断し、今年発足した。

なお、8 期以前の先輩が在校生の地域交流活動をご存じなかったので夏季のボランティア研修交流会で周知した。

グループ紹介⑮
うたごえサークル

国11-文　中村　豊和

うたごえサークルは“わ”の文化部に所属していますが、ＫＳＣの歌謡クラブ出身者が中心となり、ＫＳＣの卒業生を対象に，卒業後のふれあいの絆を深め歌うことにより各人の健康維持を図るとともにより充実した毎日をエンジョイする事を目標に歌が大好きな仲間が集まって活動を開始しました。

平成１７年４月に発足し，今ではクラブ員の総数は１００名を超えました。練習の会場は平成２０年１月より“わ”の管理下の須磨一の谷プラザとなり，曜日毎のグループに分かれて練習をしています。練習の成果は仲間内の懇親だけでなく、グループホームやサービスホームへの“うた慰問”に於いても発揮され、訪問の先々で大変喜んで頂いています。やはり歌う事で元気になり気分も高揚する効果があり、なによりご老人のお一人お一人が昔歌った歌を思い出され我々と一緒に歌い出す雰囲気が楽しいひとときとなります。

練習は毎月２曲の新曲を課題曲として約１時間, 休憩後各自の好きな自由曲を数曲　時間の許す限り歌い楽しんでいます。

うたごえサークルはこれからも自ら楽しみながら“うた活動”を通じて少しでも社会貢献に尽くしたいと思っています。

国際部会

第１３回神戸国際交流フェア開催

国 10-国　土井昭政

今年で１３回目になる神戸国際交流フェアが、３月２１日、２２日開催された。

２１日は、午後から三宮の国際会館２０階にある神戸国際協力交流センターでシンポジュウムが開催された。ＪＩＣＡ兵庫所長森川秀夫氏の“国際協力・交流の新しいカタチ－兵庫・神戸から”と題した基調講演があり、その後“草の根国際協力・交流“をテーマに森川氏、ミャンマー皆好会の権藤氏、ＡＦＳ神戸の濱田氏、エフエムわいわいの日比野氏によるパネルデイスカッションがあった。夫々の方々の国際協力・交流活動の実態紹介、喜びと苦悩、将来ビジョンなどが紹介された。

ひきつづき、“語りあおう　世界と神戸”をテーマに５団体のリレートークがあった。県立舞子高校生徒による四川との防災交流体験、市立こうべ小学校での国際性を生かした種々の行事紹介、中華同文学校の社会との関わり　など今年は学校の国際交流活動の話が中心であった。

当日５時半から交流パーテーが開かれ、文字通り参加者の交流が果たされ、国際部会からも５名参加した。翌２２日はハーバーランドのデイオドームとスペースシアターに会場が変わり、１１時から５時まで、デイオドームでは２１団体のブース展示と民族衣装ショー、スペースシアターでは、２０団体の出店と２３団体のステージショーがあった。

今年はフェア参加団体に５０００円の参加費が必要となり、若干参加団体が少なく特に飲食の出店が少なかった。グループわ国際部会は、例年どおりデイオドームの展示に参加し、しあわせの村、シルバーカレッジ、グループわ、国際部会などの紹介チラシを日本文と英文で配布した。我々の展示場所が、展示会場の入り口付近であったこと、今年から参加したアメリカ領事館の展示場所に近かったことで、来訪者も多く、大いに“わ”国際部会のＰＲができたのではないかと思っている。

今年から参加したアメリカ領事館の展示場所に近かったことで、来訪者も多く、大いに“わ”国際部会のＰＲができたのではないかと思っている。

季節の草花⑯

つゆくさ

生8―文　久保知彦

日本全土、アジア全域、アメリカ東北部など世界中に広く分布する。6月から9月頃にかけて青い花をつける。早朝に咲いた花は午後にはしぼんでしまうという短命な花。ツユクサ科の一年草で草丈30㎝余り、平行脈のある細長い葉が互生する。

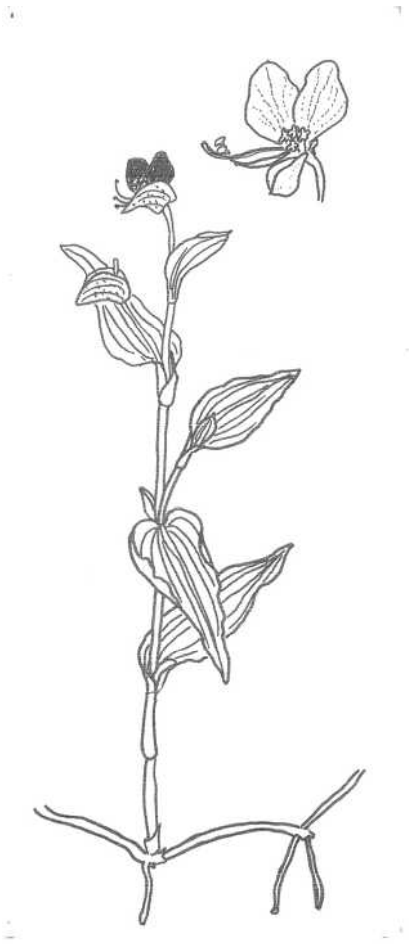
朝咲いた花が昼しぼむことが朝露を連想させるので「露草」と名付けられたとも言われる。

古くは「つきくさ」と呼ばれており、「つきくさ」が転じて「ツユクサ」になったとの説もある。

水気のある土地だと、茎の節々から根を出しどこまでも伸びて行く。可憐な感じとは裏腹に生命力の強い草である。

貝殻のような形の苞の中にいくつかのつぼみができてひとつずつ伸びて花が開く。

青くて大きな2枚の花びらに白い小さな花びらが1枚、計3枚の花びらの中から1本の長い雌しべと2本の長い雄しべがあり、さらに短く黄色の葯をつけた雄しべ（仮雄芯）が4本ある。



花の青い色素はすぐ退色する性質があるので染物の下絵を描くための絵の具として用いられたという。これで染めた色を露草色という。

カレッジ情報誌のコラム「ボランティアの心」欄で２０年１２月号に食文５期辻郁子さん、２１年2月号に福祉１１期増金スミ子さんの寄稿文が掲載されましたので、紹介します。

「させて頂く」を心がけて

食文５期生　辻　郁子

退職して人生のゴールデンタイムを迎え、シルバーカレッジに入学したことを、よい選択だったとよく思います。食文化コースで食の基本を学び、未だに仲間とよいお付き合いをしています。

さて、「再び学んで他のために」……この建学の精神に沿って、自分に何ができるかと悩む間もなく、いくつかのボランティア活動に参加する機会がありました。

カレッジ時代からの人形劇では、沢山の子どもたちと出会うことができました。保育所で「赤ずきんちゃん」の狼に泣かれたり、小さい子は年長さんが笑ったら、それを真似て遅れて笑ったりで、ほんとに心が和みました。

教育園のジャム作りでは、ベッドに寝て酸素吸入をしながらの子どもさんがいました。目も不自由でしたが、果物がジャムになっていくにつれて明らかに表情が変わり、人間の持つ感性に深い感動を覚えました。

このように、ボランティアを通して、私自身が心豊かになっていくようでした。そんな中で心がけていることは、自分が楽しく明るく活動すること、そして、何より「謙虚である」ことです。「してあげる」ではなく、「させて頂く」ですね。

有馬やフルーツフラワーパークのガイドもしています。二人で組んでやるのですが、ある日、行き先を尋ねられて二人同時に反対側を示し、大阪のお兄ちゃんに「どっちなんや！」と叱られたことがありました。恐縮して謝り、後でククッと笑ってしまいました。喜ばれたときは、私たちの気持ちもほっこりします。

「私たちって、ほんとに親切なガイドしてるよね。いつか新聞に載らないかな」なんて、相棒さんと冗談を言っています。あっ、これって「謙虚」じゃないですよね。

いつか、ご一緒に活動しましょう。

「ありがとう」の言葉と一緒

福祉１１期生　増金　スミ子

私がボランティア活動に目覚めたのは、３０年前のこと。学生時代は、ソフトボールで活躍し、結婚後は家庭でホームランをと頑張っていたのですが、子供が小学校に入った頃から少し時間に余裕ができ、親としても子供達といっしょに、成長したいとＰＴＡ役員、婦人会、シルバーカレッジに学ぶようになりました。

そのうち、社会に少しでも役立つことに喜びを感じたのがきっかけとなって、意欲的にできる限りの場に参加しながら、活動を、徐々に広げていき、気がつくと、かれこれ３０年になっていました。

ボランティア活動をするに際して、主人から贈られた言葉が「チャリティ.シュド　ビギン　アットホーム」（ボランティアは、先ずは、家庭から）ということで、時々「家のボランティアはどうなっているのかね？」と、言う声を聞き、ハッとして、反省する時期もありましたが、今は一番の理解者として、協力をして貰っています。

車椅子介助から始め、カーボランティア、学習支援手話通訳、友愛訪問の活動から阪神大震災後、少しでも明るくなって欲しいと願い、県下一円の施設等で、大道芸をして、喜んで頂きながら、また、３年前から自宅を開放して、月２回の割りで「ふれあい喫茶」を開き「仲良く、楽しく、心地良く過ごせる地域づくり」を理念に、地域の方々が住み慣れたところで、如何により幸せに生きることが出来るかを目指して、インフォームドコンセントを図りながら続けていますが、実は一番楽しんでいるのは、私かも知れません。

いろんな所で、人との出会いの中で気づかされ、励まされ、喜びも悲しみも様々な学びがあることに感謝し、これからも時間の許す限り、崖っ淵に花を咲かせながら「**ありがとう**」の言葉と一緒に、今後は若手の育成にも力を尽くして生きたいと考えています。

環境部会

環境部会長
㈱生11期　菅田 忠志

本部の親子自然塾シリーズ『親子で集まれ炭焼き体験塾とケナフ紙すき塾』が2009年3月8日実施され、お手伝いした《ケナフの会》から下記の報告がありました。

― 親子自然塾 ―
親子炭焼き体験とケナフ紙すき体験

ケナフの会 代表　長谷川　博

曇りのち雨の予報であったのに、春の日差しが一杯の3月8日カレッジで30人の親子が教室に参加されました。参加者は午前炭焼き、午後は紙すきと1日を楽しく過ごされました。事前に焼いたケナフ、竹（昨年の1月17日東遊園地で慰霊祭に使用された竹）を炉から取り出し、新しく竹、楮（実習に行った杉原紙研究所より持参）を子供たちの手により、木槌で隙間に押し込みながら篭に入れ、炉に入れ着火しました。

――炭焼きかごにすき間が出来ないように木槌で詰め込むーー

炭の講義のあとは太陽のもと中庭で昼食。午後はケナフ、温暖化の事も含めて説明をし、ハガキ、栞を各人1枚づつ押し花で各人独特の飾り付けをして完成をしました。ケナフの会スタッフは親子に作り方を汗を掻きながら手伝いと指導をしたことは言うまでもありません。

ふりかえりシートに「紙すき炭焼き楽しかった」「炭の活用をする」「脱臭効果を知った」と書かれたなかに「未来のためにエコ生活」「CO_2出来るだけ減らす」等6人の方が嬉しい感想を書かれ、環境問題も理解された思いを強くした1日でした。

――木型にすくったあと、模様となる花びらをあしらっていくーー

“わ”の人気イベントのひとつ、『豆腐づくり自然塾』ですが、今回は応募者が特に多かったこともあって、サポートしていただいた《銀の匙》のみなさんにがんばっていただき、2009年2月22日につづいて3月1日にも実施しました。以下は《銀の匙》から届いた報告です。

― 親子自然塾 ―
親子で集まれ豆腐作り塾

銀の匙 代表　辻　郁子

今年も「親子で集まれ・・・塾」が開かれ、私たち「銀の匙（さじ）」が手作り豆腐塾を担当させて頂きました。豆腐作りは、小学校3年生の学習にも取り入れられ、なかなかの人気らしいです。そのせいか、今年は特に応募者が多くて、2回も実施されました。『食』は一家団欒のもと、お父さんの参加が多いのも嬉しいことです。

―― “生呉（なまご）”と呼ばれる段階の豆腐の元になる煮込みを木綿の袋に入れ、絞り込むと豆乳とおからに分かれるーー

家では何もしない子が洗い物に大活躍したり、食べたことがないのにあんなにおいしそうに･･･など言う声も聞かれ、これは良い企画だなあと思います。

豆腐作りは、にがり打ちの後、固まるときが微妙で緊張します。うまくできると、心中密かに（いよっ、名人！）と自らをほめつつ、これからも食育に関わるボランティアに参加していきたいと思う私たちです。

―― さあ　いよいよ豆腐作りの仕込み段階
おぼろ豆腐状のものを型に入れ豆腐に仕上げる　ーー

こうべ環境未来館のエコスクールを支援

2008年12月13日、今年度第11回エコスクールが開催され、環境部会からもサポート隊を派遣。集まった60人の親子にクリスマスリースやツルのかごづくり、木の実工作、草木染を楽しんでもらった。同時に自然からのいろいろな贈りものに接する中から自然環境の大切さを学んでもらった。

子どもたちの豊かな発想からおもしろい木の実工作も誕生する。手伝うこちらもつい真剣に･･･

リースづくりは毎回人気の工作

木の実アイデア工作、クリスマスリース、つるのかご･･････
思い思いの自慢のお土産ができました。

こんな活動やってます

ホタルの飼育活動を介して、ある小学生児童たちとのつながりの紹介が寄せられました。

― 神戸ホタルの会 ―

回想記「まぼろしのファイヤーフライ計画」

―― 小学４年生児童達の挑戦 ――

神戸ホタルの会　松尾　恭治

「しあわせの村にホタルを飛ばそう！」とチャレンジを続けている。そうした活動の中で、ある小学校の子供達と連携をした内容をまとめてみました。
子供たちの挑戦を、私たちの励みにして、今も活動を続けています。子供達とのやり取りを紹介します。

私たちが「しあわせの村の日本庭園」に幼虫の放流をしようと準備し始めた頃、あの小４児童達から手紙が来た。それには幼虫を何匹かわけてほしいと書かれている。要望に応えて、古田氏の幼虫を１０匹と私の幼虫１匹を持参して待ち受けている子供達に渡した。

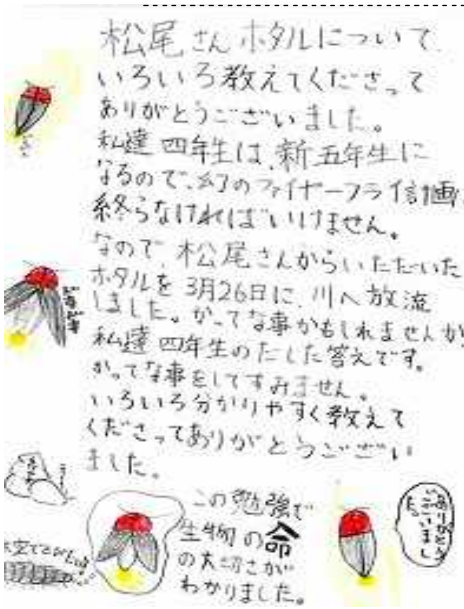
彼等は廊下に置いた飼育水槽に入れて、全員で育て、冬中観察した。幼虫も水の中で光ると言われているので、それを見ようと毎晩見に行ったらしい。

しかし全く光を見ないまま遂に、２月の発表の日が来てしまった。講堂の壇上に４年生のチーム代表の子等と共に、我がホタルの会から古田、中橋、松尾の３名がゲストとして顔を並べた。

そこで今までの経過が報告され、未だ光を見ることが出来ていないことも発表された。そしてどうすれば光を見ることが出来るかについて、我々に意見が求められた。それで私たちも幼虫の光は見たことがないが、棒でつつくなど刺激してみたら光るかも・・・・という意見を述べたところそうすることになり、その後も飼育が続けられた。

３月になって進級の時期が近づいた。このプロジェクトを終結させるに当たり彼等が話し合った結果、幼虫を元の川に返して自然のままに上陸させ、６月の飛翔を待つことになったらしい。

３月末になって担任の先生から丁寧なお礼状をいただいた。お礼の言葉と共に子供達は初期の目的は達成出来なかったものの、きっと何かをつかんだことでしょうと書かれていた。そして子供達からたくさんの手紙が来た。みんな子供達の夢を託したホタルの絵が描かれていた。その何枚かをお見せしよう。この子供達の情熱的な活動を思い出すとき、胸が熱くなって泣けてくるのは私一人だけだろうか。



電話相談員、一ノ谷プラザスタッフの募集

① 電話相談員

ｸﾞﾙｰﾌﾟわでは、「神戸市教育委員会」「神戸市こども家庭センター」から24時間体制の電話相談業務の委託を受けています。

この相談は365日、1日も休まず相談に応じることになっています。平日は17：00から翌朝09：00まで（16時間）土、日、祝日も17：00から翌朝09：00まで（16時間）です。

相談内容は、

「神戸市教育委員会」=いじめホットライン、

「神戸市こども家庭センター」=虐待・非行問題

相談業務は、一般相談者から電話が入ると窓口として初期対応のあと、緊急の用件の場合は、担当の職員、臨床心理士に電話を転送する業務です。ｸﾞﾙｰﾌﾟわでは広く会員から希望者を募りますが、現在の電話相談は約80名が月1回程度の勤務となっています。　希望者はグループわ事務局(TEL743-8101)まで申し込んでください。

② 一ノ谷プラザ

神戸市（須磨区役所）から一ノ谷プラザ【旧勤労会館海の家】の貸室管理業務を引き受けております。貸室の申込受付、管理運営業務のスタッフを募つています。

勤務時間帯は次の区分です。

終日　08：45～17：30(8時間45分)

半日　午前　08：45～12：30(3時間45分)

　　午後　12：30～17：30(5時間)

希望者は、グループわ事務局【電話 743-8101)まで申し込んでください。

ロゴマーク入賞者発表します

会員の皆様から公募したロゴマークは情報ぎゃらりー第４４号でお知らせしましたが、10月24日の運営委員会で入賞者を確定しましたのでお知らせします。（第４５号に掲載漏れでした。深謝）

作品番号	得票数	順位	賞	氏　名
2	21	1	最優秀賞	朝日　照夫
18	15	2	優秀賞	高木　稔雄
10	13	3	優秀賞	飯井　冴子
13	13	3	優秀賞	菅田　忠志
17	11	5	佳作賞	加藤　勇治
11	10	6	佳作賞	長谷川洸士

１期東会から48,000円寄付を受けました

このたびグループ解散された1期東会からNPO法人グループわの活動に役立ててほしいと金48000円寄付を頂戴いたしました。有難うございました。

―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―・―

１期東会の皆様へ

東会は平成8年6月に、東灘区、灘区、中央区、の１期生６１名により結成されました。　各コースから世話人１名が選出され、福祉コースの林氏が代表となられました。

平成１１年１０月まで、規約打ち合わせに始まり琵琶湖博物館、吉野山のお花見、親睦会など活動してきましたが、グループわに、新たに各区活動の組織が結成されてから、活動の母体は各区の活動に移行し、休会状態となりました。東会代表の林氏は、「また、皆で楽しいことをしようや」と事あるごとに言っておられましたが、平成１９年夏、故人となられました。

このたび、各コースの代表の方々のご賛同を得て、当時の会費の残金48,711円のうち、48,000円をＮＰＯ法人グループわに寄付することとし、本年３月１２日寄付金として納めさせていただきました。

なお、残金の711円は通信、交通費として使わせてもらいます。

皆様の今後一層のご健康とご活躍を心からお祈りしております。

平成２１年３月　（福祉１期）文責　木原愛子

情報ぎゃらりー記事訂正のお詫び

情報ぎゃらりー第45号１２頁の「★親子であつまれ炭焼き体験塾とケナフ紙すき塾」の項が重複して編集されておりました。訂正してお詫びいたします。

編集後記

桜満開の4月、平成21年度がスタートしました。第6回定期総会に向けて、資料作製・印刷、改選人事の候補者選出と狭い事務局内は、てんやわんやの大騒ぎ、本誌も新しい人を入れてよりよい情報誌にすべく頑張っています。編集子が携わって2年、紙面刷新を掲げながらこれといった成果もあげられず、残念に思っています。広報部を再編成し、これからもホームページの編集を含め、皆さんが待ち望む情報をいち早くお届けできるようにしたいので、皆さんのご意見参加をお願いします。また、本誌のカラー版をご希望の方は、ホームページをご覧ください。（HM）